

三八九七番

大きな海おほうみの奥おくかも知しらず 行く我われを 何時いつ来きま
むと 問とひし見こらはも

三八九八番

大舟おおぶねの上うへにし居をれば 天雲あまくものたどきも知しらず
歌乞うたひこそわ我が背せ

三八九九番

海人娘あまをとめ子 いざり焚たく火ひの おほほしく 角つのの松まつ
原はら 思おもほゆるかも

十年七月七日とほの夜よに、 独ひとり天漢あまのがはを仰あふぎて、

聊いさあかに懐おもひを述のぶる一首

三九〇〇番

織女たなばたし 舟ふね乗のりすらし まそ鏡かがみ 清きよき月夜つくよに
雲くも立たち渡わたる